

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより **23** 号

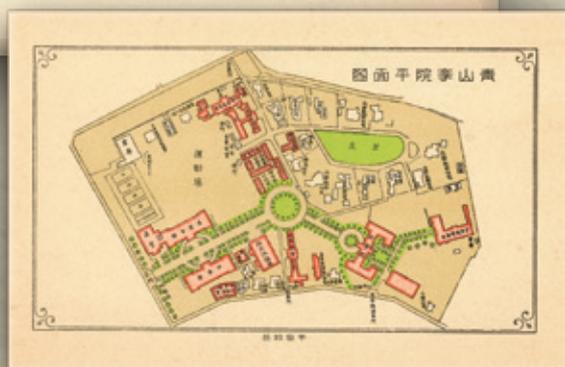


AOYAMA GAKUIN GIRL'S SCHOOL 高等女学院青山

高等女学部校舎 (校舎新築落成記念絵葉書 1926年配布)

1923年の関東大震災にて、竣工直後に崩壊した青山女学院の代官山校舎に代わる校舎として、1925年にアルバータ・B・スプロールズの尽力により建設された高等女学部の校舎。

その後、1950年から新制高等部校舎として使用され、現在の高等部新校舎が完成するまで「北校舎」として使用された。その高等部は今年(2020年)、創立70周年を迎えた。



1928年頃の「青山学院平面図」。
高等女学部校舎(図面中央やや右下)は上から見ると「HAPPY」の「H」の字形を模していたという。

青山学院史探訪

「戦争末期・終戦直後の青山学院」 牧野勤 古賀節子 — 2

資料センター所蔵資料紹介

「青山学院所蔵稀覯本のデジタル化」 遠藤玲奈 — 4

資料センター利用状況・日誌抄 — 6

受入れ資料 — 7

利用案内ほか — 8

戦争末期・終戦直後の青山学院

大学名誉教授 牧野 勤
大学名誉教授 古賀 節子

2020年1月28日(火)に開催されました第2回「青山学院の歴史を語り合う会 公開座談会～戦争末期・終戦直後の青山学院～」の発表者お二人から、青山学院中学部、高等女学部・女子高等部の思い出を語っていただきました。

1943年(昭和18年)に青山学院中学部を受験する時、東京の中学校案内の巻末に中学部は各種学校として紹介されていました。後でこれは建学の精神を順守して宗教教育を貫いた結果だとわかりました。

まず入学時の服装から話します。4、5年生は普通の紺の学生服に、学生帽、脚にカーキ色のゲートルを巻いていましたが、3年以下は全部カーキ色の服装で、今の人が見たら少年兵かと思ったでしょう。

教科に『教練』がありました。配属将校と退役軍人の先生が数名いて1年生は銃剣術の訓練、上級生は38銃という小銃を使っての訓練があり、校庭の一角に兵器庫がありました。明治神宮までの往復の駆け足や、20キロ強歩、千葉の習志野の演習場での訓練などもありました。やや若い教官はよく我々1年生の前で2年生に往復ビンタをしました。

1年の秋に学徒出陣があり、男子部、女子部の全学生が校庭に並んで壮行会が行われました。笹森順造院長がやめられ、國澤新兵衛院長代理を経て小野徳三郎院長に変わられたのもこの年です。小野院長は海軍機関中将で、式の際は海軍の軍服で来られました。後でわかったのですが、小野院長は富士見町教会の熱心なクリスチャンだったそうです。

部活は天文部に入りました。当時の東京の夜空は天文愛好家には最高の状態でした。空襲に備えて全ての家々が灯火管制で、小さな星までよく見えました。

2年になる頃、戦況はどんどん悪くなってきました。国内の労働力不足を補うため、なんと中学校、女学校の2年生以上に勉強をやめて、軍需工場で働かせる勤労働員が始まりました。我々2年生は3つの軍需会社に別々に派遣され

ました。2Aは東横線の武蔵新田にある工場でした。担任の先生は音楽の石丸先生で、昼休みにドイツの民謡を教えてくださいました。周りは殺風景な軍歌ばかりの中でほっとするひと時でした。もっとも軍歌を教えることを拒否したとかで先生は特高に逮捕され終戦まで拘留されてしまいました。翌年になると空襲が激しくなり、間もなく工場は焼かれてしまい、我々は次の仕事として強制疎開の手伝いに駆り出されました。

昭和20年5月の空襲で渋谷一帯は焼け野原になりました。学院の西側は焼けて土台だけの残っ



1943年(昭和18年) 中学部1年生の野営訓練(習志野演習場)

た土地が広々と続いていました。青山学院も木造の建物は全焼、中学部の校舎(今の大学の2号館)の内部は全焼しました。直後に行ってみると屋上の天文部の部室も全部焼けて、望遠鏡の筒だけが床にころがっていました。

戦争が終わって2学期から女学部の校舎を午後お借りして授業が再開されました。校舎の屋上に上がると、沢山の六角形の焼夷弾の跡が生々しく残っていました。間もなく中学部の校舎でも授業ができるようになりましたが、授業中に天井や側面の壁がはがれて落ちてくる劣悪な状態でした。

間もなくアメリカから宣教師のアイグルハート先生とハーカー先生が帰って来られました。4年の時はハーカー先生の英会話、5年ではアイグルハート先生の和文英訳の授業がありました。男子校に女性の先生が来られました。若い先生も増えました。

戦後の明るい話題として思い出すのが野球部

の活躍です。東京の予選でなんとベスト4になってしまいました。

昭和23年3月我々は中学部最後の卒業生〔65期〕として、思い出のたくさん詰まった学校を去りました。(牧野 勤 記)

1944年(昭和19年)、私達の青山学院高等女学部入学式は、オレンジ色の窓ガラスのプラット記念講堂で行われました。翌20年には、昼夜を問わず空襲が激しくなり、朝、授業が始まるとまもなく警戒警報が鳴り、そこで帰宅を急ぐのですが、途中で必ず空襲警報になり電車が止まり、家まで歩いて帰るのが日常生活でした。途中、機銃掃射を受けたこともありました。空襲の激化に伴い疎開する生徒が増え、4クラスが2クラスになり、上級生は工場へ動員され、キャンパスには1・2年生しかいませんでした。5月の空襲で講堂や体育館は焼失し、同時に男子部校舎も被災し使用不能になり、一時期、男子部の授業に女子部校舎が使われました。

戦後は総ての物資が不足していました。中でも食糧事情は最悪で、校内の耕作可能な土地は総て畑になり、生徒も先生方も畑仕事に精をだしました。夜はよく停電するので、試験前夜、山の手線の中で試験勉強をした人もいました。このような状況の中でも、焼失した講堂の前の中庭で、毎朝、野外礼拝は守られました。一時帰国していらしたベイレー先生が戻られ、焼け焦げた鉄骨の間から射す朝日を受けて、「ガールズ」と凜としたお声で呼びかけられた朝の礼拝は、半世紀以上たった今でも鮮明に思い出されます。また、この頃、教科書の中の不適切な箇所を黒く塗らされたり、わら半紙に謄写版で摺った印刷物で、英語を習った記憶があります。

当時は現在のような男女共学の高等部ではなく、男子部・女子部と分かれていました。戦前



1945年(昭和20年)8月 プラット記念講堂 聖歌隊に両高

の両部生の交流が厳しく禁じられていた教訓が残っており、交流は簡単ではありませんでした。当時、学院に教会があって、その

等部生が参加して、交流の場が少しずつ開けていきました。また戦後の学校生活では、クラブ活動も盛んになり、演劇部、ESS、文芸部等が組織され、ないない尽くしの学校生活でしたが、それなりに自主活動ができるようになって学校生活を楽しまました。卒業式は、講堂がなかったので、現在のガウチャー・ホールのところにあった床がコンクリートのかまぼこ屋根の講堂で行われました。

私達世代に最も大きな影響をもたらしたのは、戦後の教育制度改革です。これまで女学部を5年で卒業していたのが、現行の6.3.3制となり、私達は女学部5年で卒業するか、新制の女子高等部3年に進学するかの決断をせまられました。また同時に、新しく大学制度が設けられ、新制高等学校を卒業すれば、女子にも大学受験の資格が与えられ大学進学が可能になりました。当時の社会状況の中で、学年の三分の一弱の方が、就職の道を選ばれました。また、中国・満州な



1945年(昭和20年)11月11日撮影 女子部屋上より見たる中学部校舎と講堂

ど外地から引き上げてこられたかなりの人数の方が新制女子高等部3年に編入しました。

この教育改革でカリキュラムも大きく変わりました。最大の変化は、選択科目が増え、ホームルーム制になり、教科書とノートを持って、教室から教室へ移動したことです。調理を選択して、若いアメリカ人の先生から、英語で料理を学びました。

6年間を過ごした青山学院での中・高の生活は、最初の1年を除いて、その後の2、3年は悲惨なものでした。しかし、戦後は、ないない尽くしの中でも、私達の気持ちは明るかったと想います。なによりも教育制度改革で女性の大学進学の道が拓け、女性を取り巻く社会環境が大きく変わり始め、各自が選んだ道を歩めるようになり、私達は昭和25年、女子高等部を卒業しました。

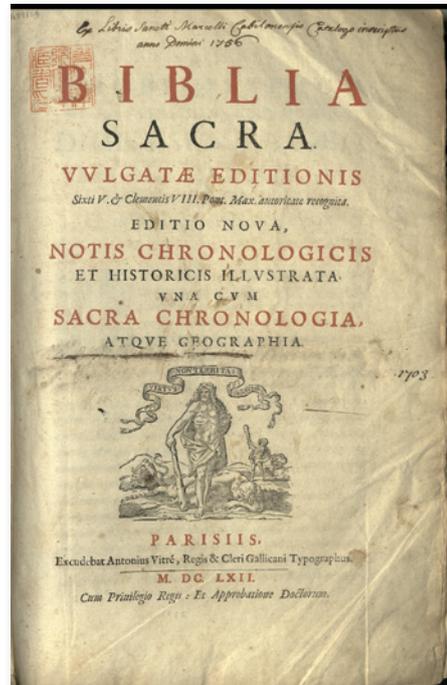
(古賀 節子 記)

青山学院所蔵稀覯本のデジタル化

大学 大学院文学研究科英米文学専攻博士後期課程2年 遠藤 玲奈



Biblia Latina



Biblia Sacra

AGU デジタルアーカイブプロジェクト

青山学院には歴史的に貴重な本、また日本有数のキリスト教関連の稀覯本がありますが、このことはあまり知られていないのが実情です。その状況を改善するために、AGUデジタルアーカイブプロジェクトはAOYAMA VISIONの支援を受けて2019年1月に発足しました。本プロジェクトの目的は主に以下の三つです。一つ目は、資料のデジタル化を行い、保存と整理に貢献すること、二つ目は、資料のデジタル画像を公開し、本学所蔵の貴重書へのアクセス促進を目指すこと、三つ目は、ウェブサイトやイベントでの情報発信を行うことです。

デジタル化にはいくつかの手順がありますが、まずは資料の撮影を行います。間島記念館2階資料センター所蔵のBookeye 4（ドイツのImageAccess社製）というスキャナーを使用し、資料を1ページずつ撮影します。次にコンピュータで画像の切り抜きを行い、サイズが一律になるようにします。最後に、実際のページ番号と

デジタル画像の番号が一致するように表にまとめて整理をします。

本プロジェクトは、ワシントンDCにあるフォルジャー・シェイクスピア図書館（Folger Shakespeare Library；以下Folger）と提携を結びました。本プロジェクトによりデジタル化された資料は、Miranda Digital Access Platformにて公開される予定です。MirandaはFolgerによるデジタルプラットフォームで、書物のデジタル画像の他、ビデオやオーディオ資料を公開するものです。本プロジェクトがFolgerと提携を結んだ背景には、日本のみならず海外においても本学の稀覯本について知ってもらいたいという思いがあります。そして、世界中の研究者が、これまで触れることの出来なかった資料へ自由にアクセスできるようになり、研究を促進させることを目的としています。

また、研究者だけでなく、広く一般の人々にも本学所蔵の資料について知ってもらいたいという思いがあります。そのため、ウェブサイトやイベントを通して情報発信を行うことも活動

内容に含んでいます。2019年10月には、本学所蔵の聖書と、書物のデジタル化をテーマとした「青山学院大学の稀観本と書物のデジタル化」と題する講演会を開催しました。

Biblia Latina

本プロジェクトがこれまでデジタル化を行ってきた資料のうち、青山学院資料センター所蔵のものを紹介します。まずは*Biblia Latina*（以下*Latina*）というラテン語聖書です。*Biblia Hieronymi*とも呼ばれるこの聖書は、1478年にヴェニスで印刷されたものです。グーテンベルクが活字印刷を実用化してから1500年までの間に印刷された書物をインキュナブラ（incunabula）と呼び、*Latina*もこれに当てはまります。インキュナブラはラテン語で「ゆりかご」を意味し、書物史においては、活版印刷技術の初期段階の本、つまり揺籃期本のことを指します。500年もの時を経たものですから、本書は貴重書としての価値が高いものですが、本学所蔵の*Latina*は保存状態が良く、それほどの年月を経たものとは信じがたいほどです（詳しくは『青山学院資料センターだより』3号、氣賀健生大学名誉教授、および『青山学報』第245号、武内信一元文学部英米文学科教授の記事を参照）。

*Latina*が本学に所蔵されたのは、メソジスト監督教会の宣教師で、本学に奉職したアイグルハート先生（Edwin T. Iglehart）の令孫リン嬢（Lynn Iglehart）が、1970年、交通事故で亡くなったことを受け、アイグルハート家の名前で維持献金されたことが背景にあります。その献金の一部が*Latina*購入費として使用されました。

Biblia Sacra

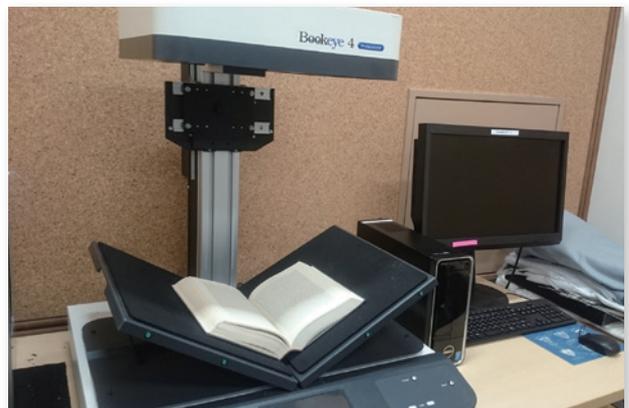
次に、*Biblia Sacra*（以下*Sacra*）をご紹介します。これは1662年にパリでAntonius Vitreによって印刷され、国王によって認可されたものです。ラテン語で書かれており、当時の書物によくあるように、ページ付けにいくつか誤りが見られます。ページ番号とデジタル画像の番号が一致するよう整理すると前頁でご紹介しましたが、ページ付けに誤りがある場合、その旨を注釈として表に記入しました。

*Sacra*は非常に大きく、縦幅が44cmあります。*Latina*の撮影時には左右見開きで各ページを順

番に撮影することが可能でしたが、*Sacra*は大きさの都合上、その撮影方法は不可能でした。見開きで置くとカメラに写る範囲からはみ出てしまうためです。そこで、*Sacra*については片側ずつ撮影を行うことにしました。まずは右側のページが写るように本を置き、右側のページを最後まで撮影します。そして左側のページが写るように配置を変え、左側のページを全て撮影するというものです。この方法は、書物への負担を考慮すると最適の方法だったと思われます。

Digital Humanities Oxford 2020 と今後の展望

本プロジェクトは活動の幅をグローバルに広げ、研究に貢献することを目指しています。そのためにはデジタル人文学の現状と今後の可能性を把握する必要があると判断し、筆者はDigital Humanities Oxford 2020（以下DHOx）というワークショップに参加しました。DHOxはデジタル人文学に興味を持つ人を対象に、2020年7月13日から15日にかけて開催されたものです。例年はオックスフォード大学で開催されますが、本年度はオンラインでの開催でした。筆者は3日間にわたり、講義形式とディスカッション形式で行われた複数のセッションに参加しました。講義形式のセッションでは、集めた情報を体系的に整理することの重要性を知りました。ディスカッション形式のセッションでは、アクセシビリティについて各国の参加者と意見を交わし、オープンアクセスの利便性を再認識しました。資料をデジタル化する段階、またデジタル画像を公開する段階の両方においてこれらの気付きを活かし、本プロジェクトを進めたいと思います。



撮影に使用しているスキャナー（Bookeye 4）

資料センター利用状況等 (2020年度前期利用状況)

1. 月別利用者数 () 内は前年度の数

※新型コロナウイルス感染拡大に伴う学院施設閉鎖および入構制限措置により、4/8より展示ホール臨時休館中

		4月		5月		6月		7月		8月		9月		計	
展示見学者数		15	(152)	0	(293)	0	(134)	8	(199)	0	(27)	14	(80)	37	(885)
資料閲覧者数		0	(20)	0	(10)	3	(7)	0	(9)	0	(0)	1	(5)	4	(51)
閲覧者の区分	本学学生	0	(7)	0	(1)	0	(3)	0	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(12)
	現教職員	0	(5)	0	(3)	3	(1)	0	(0)	0	(0)	1	(2)	4	(11)
	旧教職員	0	(1)	0	(0)	0	(1)	0	(2)	0	(0)	0	(0)	0	(4)
	校友	0	(3)	0	(2)	0	(0)	0	(1)	0	(0)	0	(1)	0	(7)
	他大学教員	0	(1)	0	(1)	0	(0)	0	(4)	0	(0)	0	(1)	0	(7)
	牧師	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(1)
	一般	0	(3)	0	(3)	0	(2)	0	(0)	0	(0)	0	(1)	0	(9)
利用の目的	教会史編集	0	(0)	0	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(1)
	学校史編集	0	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(1)	0	(0)	1	(2)	1	(4)
	著述・論文作成	0	(8)	0	(2)	3	(4)	0	(4)	0	(0)	0	(2)	3	(20)
	伝記資料調査	0	(4)	0	(1)	0	(2)	0	(0)	0	(0)	0	(2)	0	(9)
	記録類の調査・研究	0	(4)	0	(0)	0	(0)	0	(3)	0	(0)	0	(0)	0	(7)
	その他	0	(3)	0	(7)	0	(1)	0	(1)	0	(0)	0	(1)	0	(13)
資料の種類	青山学院史関係 (AA)	0	(9)	0	(1)	2	(4)	0	(5)	0	(0)	1	(0)	3	(19)
	メソジスト教会関係 (B)	0	(1)	0	(2)	0	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(2)	0	(6)
	英語・英文学関係 (JIF)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	明治期キリスト教関係 (JIG)	0	(8)	0	(0)	0	(0)	0	(2)	0	(0)	0	(1)	0	(11)
	一般分類図書	0	(1)	0	(2)	0	(3)	0	(2)	0	(0)	0	(1)	0	(9)
	その他	0	(1)	0	(5)	1	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(1)	1	(8)
資料の形態 (閲覧点数)	図書	0	(53)	0	(74)	8	(48)	0	(45)	0	(0)	0	(16)	8	(236)
	マイクロフィルム	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	写真 (含ネガ)	0	(3)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	3	(1)	3	(4)
	アルバム	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)	1	(0)
	個人資料ファイル	0	(2)	0	(2)	0	(29)	0	(5)	0	(0)	0	(0)	0	(38)
	ビデオ・DVD等	0	(0)	0	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(1)
	その他	0	(34)	0	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(35)

※利用の目的・資料の種類は重複回答あり

2. 月別レファレンス件数 () 内は前年度の数

		4月		5月		6月		7月		8月		9月		計	
件数		1	(18)	2	(10)	7	(9)	7	(7)	5	(11)	11	(7)	33	(62)
質問者の区分	学生	0	(1)	0	(0)	0	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(2)
	現教職員	1	(8)	2	(3)	2	(5)	4	(6)	3	(7)	5	(4)	17	(33)
	旧教職員	0	(0)	0	(0)	0	(1)	0	(1)	0	(0)	2	(0)	2	(2)
	校友	0	(1)	0	(3)	0	(0)	0	(0)	0	(1)	1	(1)	1	(6)
	一般	0	(8)	0	(4)	5	(2)	3	(0)	2	(3)	3	(2)	13	(19)
質問内容	写真所蔵調査	0	(4)	1	(3)	2	(3)	1	(2)	1	(2)	1	(2)	6	(16)
	文献所蔵調査	1	(5)	0	(1)	3	(1)	0	(1)	0	(2)	6	(3)	10	(13)
	事項調査	0	(6)	1	(6)	1	(4)	6	(4)	2	(6)	4	(2)	14	(28)
	その他	0	(3)	0	(0)	1	(1)	0	(0)	2	(1)	0	(0)	3	(5)

3. 日誌抄



2020年4月

- ・女子短期大学70周年記念ギャラリー展「青山学院における女子教育の歴史を振り返る」vol.3へ資料提供
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う学院一斉閉鎖措置により、展示ホール臨時休館 (4/8~)
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う学院一斉閉鎖措置による在宅勤務実施に伴う事務室閉室 (4/8~5月末)

- ・150年史編集事務打合せ 1回
- ・大学教授来室 (150年史編集のため) 5回

5月

- ・展示検討小委員会開催 (メール形式にて開催)
- ・第1回資料センター運営委員会開催 (メール形式にて開催)
- ・150年史編集事務打合せ 1回
- ・他部署主催会議に出席 (メール形式による開催) 1回
- ・大学教授来室 (150年史編集のため) 4回

6月

- ・「青山学院大学附置青山学院史研究所 (仮)」開設に関

する大学との打合せ 3回

- ・150年史編纂事務打合せ 1回
- ・他部署主催会議に出席（メール形式による開催を含む） 3回
- ・大学教授来室（150年史編纂のため） 6回
- ・他部署主催会議に出席 1回
- ・大学教授来室（150年史編纂のため） 8回

7月

- ・「青山学院大学附置青山学院史研究所（仮）」開設に関する大学との打合せ 1回
- ・150年史編纂事務打合せ 2回
- ・150年史編纂本部会議開催
- ・他部署主催会議に出席 1回
- ・大学教授来室（150年史編纂のため） 6回

8月

- ・『Aoyama Gakuin Archives Letter』22号発行
- ・150年史別冊編集業者選定のためのヒアリング開催
- ・マイクロフィルムリーダー点検（マイクロシステム株式会社）
- ・大判資料収納用キャビネット納品、設置（株式会社イトーキ）
- ・収蔵庫内蛍光灯の蛍光管紫外線防止カバー取付
- ・消火器点検、貴重書室不活性ガス消火設備点検
- ・大学教授来室（150年史編纂のため） 4回

9月

- ・博物館実習（大学文学部比較芸術学科）にて展示室4を利用（9/7～9/11）
- ・青山学院防災訓練に参加
- ・他部署主催会議に出席 3回
- ・大学教授来室（150年史編纂のため） 5回

2020年度前期受入れ

資料

（学内部署からの資料は除く）

寄贈（敬省略、受入順）

川津求

- 「中田重治の神学に関する考察－イスラエル民族回復の希望を中心に－」川津求著 東京聖書学院 2019年度卒業論文

関田寛雄（大学名誉教授）

- 「道 青山学院大学関田寛雄アドバイザー・グループ50周年記念誌」青竹の会著 2015年11月7日（次頁写真①）
- 『あなたはどこにいるのか 関田寛雄講話集』関田寛雄著 一麦出版社 2015年3月

小林哲夫

- 「大学とオリンピック 第7回 学生通訳たちの六四年東京大会」『中央公論』5月号 2020年4月10日
- 「大学とオリンピック 第8回 裏方学生たちの六四年東京大会秘話」『中央公論』6月号 2020年5月10日

佐藤晟雄（校友）

- 「わたしのスケッチブック」(19) 佐藤晟雄著 2020年4月23日（次頁写真②）

中川卓郎（校友）

- 「グリーンハーモニー OB NEWS」No.61 青山学院大学グリーンハーモニー合唱団 2020年4月

青山学院女子短期大学同窓会

- 「青山学院女子短期大学同窓会会報」第46春号・46秋号（2020特別版）2020年4月25日、10月1日 各1点

大橋利康（校友）

- 越谷達之助先生関係資料 高等部関係資料他多数

青山学院大学文学部英米文学科同窓会

- 会報「Aoyama Sapience」第43号 青山学院大学文学部

英米文学科同窓会 2020年07月15日

荒澤昭雄（校友）

- 「広研のあゆみ 創成期編 初代～10代 昭和34年度～44年度(1959～1969)」青山学院大学広告研究会 会年史編纂委員会（初代～10代）2020年7月24日（次頁写真③）

日本評論社

- 「史料の窓」佐藤大悟（大学文学部助手）著 『法律時報』2020年92巻10号 通巻1155号 日本評論社 2020年9月1日

陸奥新報社 編集局報道部

- 「緑岡初等学校寄贈、船戸小の柱時計」『陸奥新報』陸奥新報社 2020年8月23日

- 「記憶をつなぐ終戦75年」『陸奥新報』陸奥新報社 2020年9月8日

神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター

- 『非文字資料研究に飛び立つ－2016年度海外招聘・派遣事業報告集－』神奈川大学日本常民文化研究所 非文字資料研究センター 2018年3月20日（次頁写真④）

宮田千代（校友）

- 『一刀流極意』笹森順造（元院長）著 「一刀流極意」刊行会 1965年11月15日（次頁写真⑤）

青山学院高等部同窓会

- 「青山学院高等部同窓会報」79号 青山学院高等部同窓会 2020年9月10日

他大学・学校

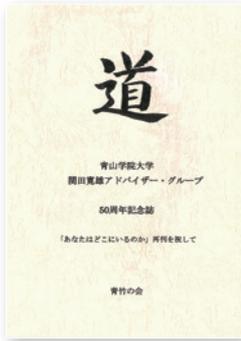
- 年史・紀要類

購入（受入順）

- 『基督教青年会一覽』日本基督教青年会同盟 明治44(1911)年9月1日（次頁写真⑥）

- 『日本キリスト教歴史人名事典』日本キリスト教歴史大事典編集委員会 教文館 令和2(2020)年8月30日

- 『日露戦争軍人信仰実験談』高松甚六編 教文館 明治38(1905)年12月9日（次頁写真⑦）



写真①「道 青山学院大学関田寛雄アドバイザー・グループ50周年記念誌」



写真②「わたしのスケッチブック」(19)



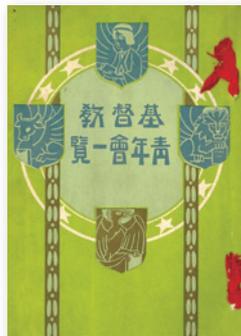
写真③「広研のあゆみ 創成期編 初代～10代 昭和34年度～44年度 (1959～1969)」



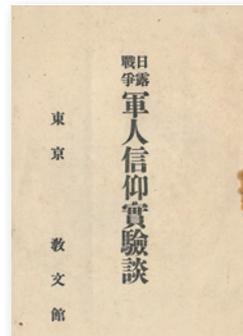
写真④「非文字資料研究に飛び立つ -2016年度海外招聘・派遣事業報告書-」



写真⑤「一刀流極意」



写真⑥「基督教青年会一覽」



写真⑦「日露戦争軍人信仰實驗談」

青山学院資料センター利用案内

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 感染拡大に伴い、現在、学院施設入構制限措置がとられております。そのため、以下にご案内しております資料センター展示ホールは当面の間、臨時休館といたします。また、資料閲覧につきましても休止とさせていただきます。

なお、再開日時が決まりましたら、ホームページにてご案内いたします。

●展示ホールの見学

青山学院史関係資料の常設展示を無料にて一般公開しています。お近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。

公開時間 月～金曜日 ▼9:30～17:00 (入館は16:30まで)
土曜日 ▼9:30～13:00 (入館は12:30まで)

●休室日

日曜日・国民の祝日・年末・年始・その他学院が定める休日
ホームページのカレンダーにてご確認ください。

●資料閲覧

青山学院史、明治期キリスト教関係資料などを公開しています。特定の研究目的を持って閲覧ご希望の方は、電話・FAX・メールにてご連絡ください。

閲覧時間 (いずれも昼休み11:30～12:30)
月～金曜日 ▼9:30～17:00 土曜日 ▼9:30～13:00

●問い合わせ

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 間島記念館2階
青山学院資料センター
TEL 03 (3409) 6742
FAX 03 (3409) 8134

メールアドレス ag-archives@aoyamagakuin.jp
青山学院ウェブサイトの中に資料センターのページがあります。こちらもご覧ください。

<https://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/index.html>

資料センター運営委員

院長 (職務上) 山本与志春
常務理事1名 (職務上) 楯 香津美
学院宗教部長 (職務上) 大島 力
大学図書館長 (職務上) 野末俊比古
大学 教員1人 小林 和幸
女子短期大学 教員1人 清水 康幸

高中部 (高) 教員1人 佐藤 隆一
高中部 (中) 教員1人 森田久美子
初等部 教員1人 窪田 靖
幼稚園 教員1人 赤坂 洋子
総局長 (職務上) 石黒 隆文
資料センター事務長 (職務上) 岩本 智実

資料センタースタッフ人数

資料センター事務:
専任 2人 派遣 1人
パートタイム 2人
(週4日:1人、週5日:1人)
『青山学院150年史』編集業務:
大学文学部助手 (出向) 2人
パートタイム 2人
(週3日:1人、週1日:1人)

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 23号

青山学院資料センター編・発行
2020年12月21日発行

